

氏 名	辰巳 洋子
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 6 6 号
学位授与年月日	平成 2 5 年 3 月 7 日
学位論文題目	臨床看護師のキャリア発達に関する学習ニード － 3 0 ～ 5 0 歳代の看護師に焦点をあてて－

論文 内 容 要 旨

※整理番号	171	(ふりがな) 氏 名	たつみ ようこ 辰巳 洋子
修士論文題目	臨床看護師のキャリア発達に関する学習ニード —30～50 歳代の看護師に焦点をあてて—		
<p>【目的】 30 歳から 50 歳代の看護師を対象として、キャリア発達に関する学習ニードを明らかにする。</p> <p>【仮説】 1) 意図的にキャリアを発達させている者は学習ニードが高い。 2) 職業的アイデンティティが高いほど学習ニードも高い。 3) 各年代によって、学習ニードは異なる。</p> <p>【研究の意義】 30 歳から 50 歳代のキャリア発達に関する学習ニードが明らかになることで、キャリア支援のあり方がより具体的になる。また、看護実践能力が安定するといわれる 40 歳以上の看護師の確保方法の一助となる。</p> <p>【研究方法】 1. 研究デザイン : 量的研究 2. 調査対象 : 近畿地区の特定機能病院・地域医療支援病院 81 施設に研究協力の依頼文と同意書及び年代別の看護師数を把握するための調査票を郵送し研究協力を依頼した。承諾を得た 10 施設で働く 1789 名の看護師に調査協力の依頼文と調査票を配布した。</p> <p>【結果】 回収数は 919 名 (51.3%) だった。このうち看護職の職業的アイデンティティ尺度と学習ニードアセスメントツール—臨床看護師用—、年齢とキャリア発達へのための目標の程度の項目に回答した 870 名 (有効回答率 94.7%) を分析対象とした。 職業的アイデンティティと学習ニードに相関関係はなかった。また、キャリア発達に関する目的が明確であるほど、職業的アイデンティティ、学習ニードともに有意に高かった。 学習ニードの得点と年代には有意な関係はなく、目的と職業的アイデンティティが影響していた。 30 歳代の看護師は、他の年代と比較して、研究発表に取り組む者が多く、その他、院外長期研修に参加、後輩指導に取り組んでいた。また、受けてみたい教育は専門看護師教育であるが、受けたことがあるのは実習指導者講習会、ファーストレベル教育だった。仕事以外の時間に行う習い事や、尊敬する先輩の存在が学習ニードの有意な影響を及ぼしていた。 40 歳代の看護師は、院外長期研修に参加、委員会活動、後輩への指導に取り組む者が多かった。受けてみたい教育は、セカンドレベル教育であるが、受けたことがあるのは、実習指導者講習会、ファーストレベル教育、通信大学での教育だった。習い事、趣味の活動、家族と過ごす、読書や雑誌を見るのが学習ニードに有意に影響していた。 50 歳代の看護師は、通信大学に取り組んでいることが多く、その他、委員会活動、後輩への指導に取り組んでいる。受けてみたい教育は通信大学での教育であり、受けたことがあるのは実習指導者講習会、ファーストレベル教育、通信教育での教育である。</p> <p>【考察】 看護師が自らのキャリアを発達させるには、キャリアに関する明確な目的をもつことが重要である。キャリアや職業的アイデンティティの発達には個人的自己の成熟を促すことも重要だといえる。</p> <p>【総括】 看護師の多くが女性であり、ライフイベントなどの関係で年代による学習ニードや職業的アイデンティティは異なると推測していたが、学習ニードとは有意差はなく、職業的アイデンティティのみ有意な変化がみられた。また、それぞれ自己の目的が明確化にしている者ほど有意に変化することが明らかとなった。</p>			